

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 11 日現在

機関番号：32517

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23501168

研究課題名(和文) 学生の主体的な学びを促進する保育士養成の在り方

研究課題名(英文) Training to promote proactive learning for future nursery-school teachers

研究代表者

木下 昭一 (KINOSHITA, Shoichi)

聖徳大学・児童学部・教授

研究者番号：50221213

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、高度な専門性を有する質の高い保育士養成を、実習に関するデータベースによる学生の相互支援システムを中心とした学習支援によって実現する可能性を探ろうというものである。

この相互支援システムを構築するために学生を対象とした3つの予備調査を実施した。1つ目は、試験運用中のデータベースのインターフェースに関する調査。2つ目は、データベースへのアクセス方法に関する調査。3つ目は、手遊び歌データベース構築のための調査である。

これらの予備調査をもとに、試験運用中のデータベースの改良を行い、学生が互いに学び合う環境を整え、実習に関する情報の共有化を可能とした。

研究成果の概要(英文)：This research aims to develop a training program to train high-quality nursery-school teachers who possess advanced expertise. This program seeks possibilities of utilizing a learning-support system that focuses on a mutual assistance system based on a database of teacher training.

In order to formulate the mutual assistance program, we conducted three research studies on students. The first research is based on the interface of a currently used pilot database. The second research is based on access methods. The third research is based on the development of a database of songs for hand games. Based on this research, we were able to improve the currently used pilot database and organize an environment where students can learn from each other and make information-sharing about teacher training possible.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学教育・教育工学

キーワード：保育者養成 データベース 実習

### 1. 研究開始当初の背景

実習および実習事前事後指導に関する先行研究は、1990年代以降に散見されるようになってきたが、その多くは指導者側の視点からの事前事後指導のプログラムの問題点の検討や内容の改善に関するものであり、学生のニーズに対応する視点は希薄であった。実習前後の意識の変化など、学生の実態の把握に関する研究や、実習における学生の相互学習支援などの研究も見られるが、データベース等を利用した広範囲での学生間の交流を企図した研究は十分な取り組みが進んでいるとは言い難い状況であった。特に、保育実習に関する研究は少ない状況であった。

申請者らは、これまで保育士に関する事前指導プログラムの改善についての実践研究や、実習前後の学生の成長や変化および実習学生の課題認識の調査研究を行ってきた。これらの研究や上述の先行研究をもとに実習指導の在り方を研究した結果、以下のような課題が明らかになった。

- ・実習事前指導の内容は、学生が何を知りたいかという観点で不十分であった。
- ・学生は主体的な学びに慣れておらず、実用的な情報を自分で探すことが困難である。
- ・実習事後指導では小グループでの意見交換を行っているが、問題意識の共有や経験の共有化が不十分であり、貴重なリソースが十分に活用されていない。

これらを踏まえ、学生の主体的学びを支援するという観点からの実習事前事後指導の在り方についての研究が重要であるとの考えに至った。

### 2. 研究の目的

本研究は、高度な専門性を有する質の高い保育士養成を、学習支援によって実現する可能性を探ろうとするものである。ここで探ろうとする具体的な学習支援の方法は、次のとおりである。

- (1) 経験知の集積としての共有データベースを構築し、これを保育実習における学生の相互支援システムとして運用する。
- (2) このシステムを利用し、データベースを介した学びの共同体を創出する。

これらの方法による学習支援を行うことによる、主体的な学びを促進するような保育士養成の在り方を検討することを目的とする。

### 3. 研究の方法

上記の研究の目的を達成するために、次の方法をとった。

- (1) 学生のニーズ把握のための予備調査、およびその結果に基づくデータベースの試験運用。
- (2) データベースを介した学びの共同体のモデルの検討と、そのためのツールの開発・試験運用。

- (3) 学生からのフィードバックをもとにデータベースの改良を行うとともに、データベースを介した学びの共同体を中心とした、学生の主体的な学びに基づく保育士養成の在り方の検討。

### 4. 研究成果

研究計画に従い、学生のニーズを把握するための予備調査を実施し、それをもとにデータベースの在り方を検討した。

最初の予備調査として、試験運用中のデータベースのモニター調査と、情報端末およびSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の利用状況に関する調査を実施した。

データベースのモニター調査は、試験運用中のデータベースが学生にとって利用しやすいインターフェースになっているか検討するために、次の要領で実施した。試験運用されているデータベースには、実習先の名称や住所などの実習に関する基本的なデータを収載してある。調査時期は2011年7月。調査対象は聖徳大学児童学部児童学科の1年次生である。調査内容は次のとおりである。

- ・操作の分かりやすさ
- ・操作に要する時間
- ・実習データベースに対する要望

操作性については、多くの学生は「分かりやすい」ととらえる結果となった。しかし、「長い文を書くときには打った文字が常に見えるようにしてほしい」などの要望もあった。データベースの使用感についても、90%を超える学生が肯定的に回答した。

情報端末に関する調査はデータベースへの適切なアクセス手段の検討を目的に実施した。また、学生間の相互支援の促進を目的として、実習相互支援システムの中にネットを通じた情報交換システムを組み込むことを検討していた。独自のSNSを構築した場合、学生に既存のSNSを利用した経験があれば、その導入はスムーズにすすむ。これらの検討のため、SNSの利用状況の調査を実施した。実施要領は次の通りである。調査期間は2011年7月。調査対象は聖徳大学児童学部児童学科の1年次生および2年次生である。主な調査内容は次のとおりである。

- ・情報端末(携帯電話、パソコン、スマートフォン)の利用状況。
- ・SNS(mixi、Facebook、Twitter、その他のSNS)の利用状況。

情報端末の利用状況の結果は次の通りであった。携帯電話の利用が最も多かったが、スマートフォンへの切り替えが予想される結果となった。また、パソコンについては、家族との共有を含めれば9割を超す所有率であったが、その使用はネットへの接続が主たるものであった。SNSの利用状況は、mixi、Twitter、Facebookの順で利用率が高く、これらのいずれかを利用しているものは約7割であった。

データベースへのアクセス方法としては、

調査時点では携帯電話の利用を考慮する必要が高いことが分かったと同時に、スマートフォンへの移行の可能性が高いことも分かった。既存のSNSは高い頻度で利用されていることから、実習相互支援システムの中にネットを通じた情報交換システムを組み込むことの有用性もわかった。

次の予備調査として、「手遊び歌」に関する調査を実施した。実習前の学生には、保育技術を学ぶための支援が必要であると考えられるが、ここでは特に「手遊び歌」に関して取り上げ、「手遊び歌データベース」の運用方法や教育への応用を目的とした。調査時期は2013年7月。調査対象は聖徳大学児童学部児童学科の3年次生および4年次生である。調査内容は次のとおりである。

- ・実習に向けて準備したこと
- ・手遊び歌の準備について
- ・実習中に行った手遊び歌について
- ・実習先での手遊び歌
- ・「手遊び歌データベース」について

この調査により次のことが明らかになった。実習前に手遊び歌の準備は9割以上の学生が行っているが、特別に力を入れているわけではない。準備の方法は、大学の授業が多い。実習中に手遊びを行うかどうかは、実習施設によって大きな違いはあるが、学生が手遊びを行うのは「絵本・紙芝居の導入」と「活動の導入」の場面が多い。実習先で歌われている手遊び歌の曲目はある程度決まっている。「手遊び歌データベース」を利用したいと考えている学生は多いが、自分自身が投稿することには消極的である。

以上の予備調査をもとに、試験運用中であったデータベースを改良した。現在データベースは、次のものから構成されている。

- ・過去において学生の行った実習のデータベース。実習関連の話題を中心としたBBSも作られている。
- ・絵本データベース
- ・手遊び歌データベース

このデータベースを利用して、学生が互いに実習に関して学び合う環境を整えた。学生がそれぞれの得た情報をデータベースやそれに付随するBBSを利用して知識や情報を交換することによって、それらを共有することが可能になった。これにより、実習という得難い機会を、学生が先輩の経験から学びまた自分自身の経験を後輩へ伝えていくための必要な支援を行うことも可能となった。

最後に、本データベースの本格的な稼働には大きな課題があることが明らかになっていく。個人情報保護の問題である。この問題については引き続き検討を行っていく必要がある。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

## 〔雑誌論文〕(計3件)

木下昭一、池田一磨、有働玲子、沢崎真史、野上遊夏、細戸一佳、森貞美、渡辺明子、教育実習を支援するデータベースの構築と運営 保育所、幼稚園実習を主として、聖徳大学研究紀要、査読あり、第24号、2013、47-54

野上遊夏、渡辺明子、池田一磨、有働玲子、木下昭一、沢崎真史、細戸一佳、森貞美、実習支援を目的とした動画データベースの検討、聖徳の教育む技法、査読あり、第8号、2013、19-30

細戸一佳、有働玲子、木下昭一、沢崎真史、野上遊夏、森貞美、手島勝朗、データベースシステムを介した実習相互支援システムの構築に向けて データベースのアクセス手段、データベース・インターフェイス及び情報交換ツールのあり方の検討、聖徳の教育む技法、査読あり、第6号、2011、31-43

## 〔学会発表〕(計7件)

木下昭一、池田一磨、有働玲子、沢崎真史、野上遊夏、細戸一佳、森貞美、渡辺明子、教育実習支援のためのデータベース、日本教育情報学会第29回年会、2013年11月10日、沖縄女子短期大学

渡辺明子、野上遊夏、細戸一佳、有働玲子、沢崎真史、池田一磨、森貞美、実習支援を目的とした手遊び歌のデータベース、全国保育士養成協議会第52回研究大会、2013年9月6日、かがわ国際会議場

細戸一佳、有働玲子、沢崎真史、野上遊夏、森貞美、渡辺明子、保育実習における手遊び歌データベースの構築と運営、日本保育学会第67回大会、2013年5月17日、大阪総合保育大学

木下昭一、細戸一佳、池田一磨、野上遊夏、構内LANの中に設置される実習関連データベースの構築と吟味、日本教育情報学会第28回年会、2012年8月25日、聖徳大学

野上遊夏、有働玲子、木下昭一、沢崎真史、細戸一佳、森貞美、データベースを介した実習相互支援システム 専門職業人としての保育者養成のために、全国保育士養成協議会第50回研究大会、2011年9月9日、富山県民会館

野上遊夏、有働玲子、木下昭一、沢崎真史、細戸一佳、森貞美、手島勝朗、データベースを介した実習相互支援システム 実習データベースの試験的運用、日本教育情報学会第27回年会、2011年8

月 21 日、十文字学園女子大学

細戸一佳、有働玲子、木下昭一、沢崎真史、野上遊夏、森貞美、手島勝朗、データベースを介した実習相互支援システム学生の情報端末およびSNS使用状況調査、日本教育情報学会第 27 回年会、2011 年 8 月 21 日、十文字学園女子大学

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等：なし

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

木下 昭一 (KINOSHITA, Shoichi)

聖徳大学・児童学部・教授

研究者番号：5 0 2 2 1 2 1 3

### (2) 研究分担者

沢崎 真史 (SAWAZAKI, Mafumi)

聖徳大学・児童学部・教授

研究者番号：8 0 3 2 0 7 0 3

有働 玲子 (UDOU, Reiko)

聖徳大学・児童学部・教授

研究者番号：5 0 2 3 2 8 8 0

細戸 一佳 (HOSODO, Kazuyoshi)

聖徳大学・児童学部・准教授

研究者番号：9 0 3 3 7 7 7 5

野上 遊夏 (NOGAMI, Yuka)

聖徳大学・児童学部・准教授

研究者番号：7 0 3 6 4 9 7 4

森 貞美 (MORI, Jeongmi)

聖徳大学・児童学部・准教授

研究者番号：1 0 3 3 7 8 5 0

池田 一磨 (IKEDA, Kazuma)

聖徳大学・児童学部・准教授

研究者番号：1 0 3 8 3 4 4 9